

質問
健康いといがわ21に基づく健康づくりの取り組みはどのように進められているか。特定健診受診率の推移、当市の疾病の特徴、一人当たり医療

健康づくりについて



新保 峰孝
議 員

質問
当市は30年先も持続可能なまちづくりを掲げ、定住人口4万7千人を目標にして、チ

人口減少と少子高齢化社会の対策について



渡辺 重雄
議 員

費の推移についてはどうか。
市長答弁
健康いといがわ21では、市民一人一人が健康づくりに主体的に取り組むことを目指し、家庭、地域、行政等それぞれの役割を明確にし、協力・連携しながら健康づくりの実践を推進している。
特定健診受診率については、平成22年度の38パーセントから、平成25年度には50.6パーセントに増加し、県平均を9.3ポイント上回っている。当市の疾病の特徴については、循環器系の疾患の占める割合が県

ーム糸魚川などを通じて事業や活動がスタートしているが、一方では、現実的な対応として、人口減少にふさわしい経済や社会の仕組みをどう作り、人口が減少しても幸せに暮らしていくためにはどのような戦略が必要かを考えることも重要になっている。
目標に向かう対策と、現実に対処する対策について伺う。
(1)人口減少による市政への影響
(2)自然動態の現状と出生率の回復策
(3)社会動態の現状とU・I・ターンの促進策

質問
国保加入者数と年代別推移、受診件数、一人当たり費用額の推移について伺う。医療費の中で割合が高い疾患、増えている疾患は何か。さらに、国保税額と給付準備基金の推

国民健康保険税について

平均より高い状況であり、国民健康保険の一人当たりの医療費は、平成25年度で約28万9千円であり、平成22年度と比較して4.8パーセント増加している。

(4)人口減少時代の人づくりと教育のあり方
(5)産業経済への影響と活性化策
(6)健康寿命の延伸と高齢者の労働参加率の向上
(7)市民協働と情報の共有
市長答弁
(1)市税の減収や地方交付税の減少による行財政運営への影響や、高齢化による集落機能の低下があると考えている。
(2)平成25年10月から平成26年9月まででマイナス389人となっており、出生率の回復

移はどうか。
市長答弁
加入者数は、平成25年度年間平均は1万899人で、平成22年度と比較して674人減少しているが、65歳以上の前期高齢者の占める割合は、全体の50.2パーセントで、18ポイント増加している。受診件数は減少傾向であるが、一人当たりの受診件数、費用額ともに増加している。費用額の高い疾患は、新生物、循環器系、消化器系の疾患で49パーセントを占め、増加率の高い疾患は、新生物、消化器系である。

には、婚活事業や妊娠アシストなどによる少子化対策を実施しており、引き続き、新たな取り組みも含めて、対策を講じていく。
(3)平成25年10月から平成26年9月まででマイナス273人となっており、ふるさと就職促進事業などの定住対策を実施しており、引き続き新たな取り組みも含め、総合的な支援で移住・定住の取り組みを講じていく。
(4)子ども一貫教育を進めることによって、地域を愛し、地域に貢献できる人材の育成に努めていく。

また、国保税額は、平成22年度と比較して、平成25年度では約6千万円の減額となっており、給付準備基金は、平成25・27年度の交付金等の精算で、基金のほとんどを取り崩す予定である。

(5)1次産業の担い手不足をはじめ、労働力の減少や消費の減退など影響が大きいと考えており、引き続き、農工商連携、6次産業化を推進していく。
(6)健康いといがわ21に基づく運動、栄養など6分野の取組強化と、高齢者の就労促進に努めていく。
(7)行政懇談会や出前講座を通じて市民へ情報提供を行うとともに、チーム糸魚川で情報共有し、市民協働で取り組みを進めていく。

